



2012パブリッククラウド利用動向調査

- クラウド利用ユーザーへのアンケート調査報告 -

株式会社テラスカイ

2012年10月

目次

1. 調査概要とエグゼクティブサマリー
2. 回答者属性
3. クラウドの利用状況
4. クラウドの運用について
5. 今後のクラウド利用について

1. 調査概要とエグゼクティブサマリー

調査概要

テラスカイでは、これまで650社以上の企業に対し、クラウドを利用したシステム導入、コンサルティングサービスを行ってまいりました。その中で、クラウドを導入する前の企業と、導入後の企業では、クラウドに対する考え方方が異なるのではないかという仮説を持つに至りました。

本調査では、テラスカイが過去にクラウドサービスの導入やクラウド上で開発したアプリケーションを提供した企業を対象とし、クラウド利用に関するアンケート調査を実施しました。

方 法: Webによるアンケート

調査対象: 企業のIT部門、及びITシステムの選定にかかる方

調査期間: 2012年8月3日～9月19日

回答者数: 102社(企業の重複を含まず)

調査地域: 首都圏を中心に日本国内全国

エグゼクティブサマリー

1. パブリッククラウドの選択理由は「導入スピード」が最大で6割以上。

実際には、44%の企業が3ヶ月未満でのシステム導入を実現しています。73%の企業が6ヶ月未満での導入を実現しています。

2. クラウドに移行したシステムは「今までシステム化されていない」システムが42%

クラウドに移行したシステムは、「今までシステム化されていない」が42%でもっと多く、次いで「部門のクラウドアントサーバー」が27%、「WEBアプリ」が26%で、「ホストコンピューター」は5%のみでした。

3. 42%の企業がクラウドの導入によりコストが削減できたと回答

コスト削減の可否は、その試算期間によって回答が分かれました。「削減できた」と回答している企業では、3～5年で試算している企業が多いのに対し、「増加した」と回答した企業は1年以内で試算している企業が多く見受けられます。

4. ユーザー部門による運用を行う企業が、改修のスピードがもっとも速い

エンドユーザー部門が運用中の改修を担当している企業では、一週間以内に改修をできると回答した企業が56%に対し、情報システム部門の場合は41%、ベンダーの場合は20%です。

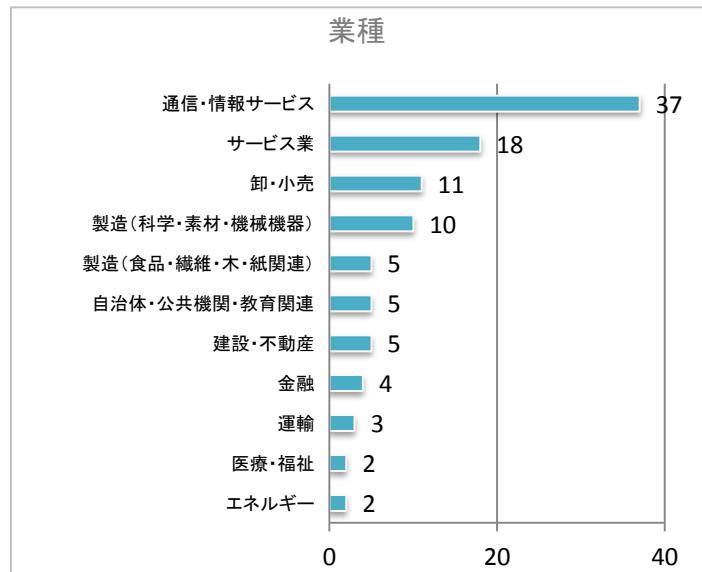
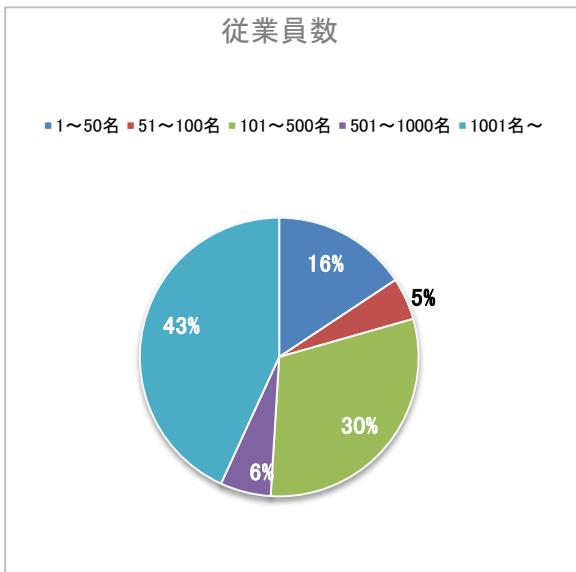
5. 今後、基幹系・業務系アプリケーションをクラウドにのせてもいいと回答した企業は71%

そのためにクリアする条件としてあがった回答は、「セキュリティ」よりも「自社のビジネスロジックの実現」と回答した企業の方が多く見受けられました。

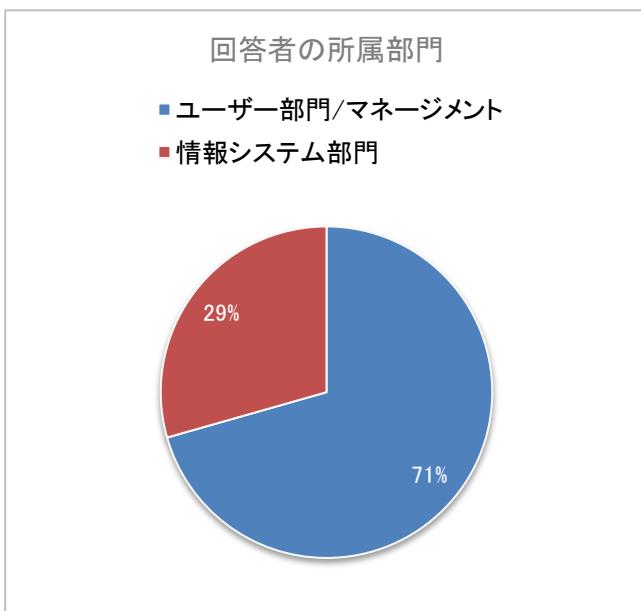
2. 回答者属性

パブリッククラウドを既に導入している、日本国内に本社、または拠点を置く102社の対しアンケート調査を実施しました。

2.1 回答者の企業情報



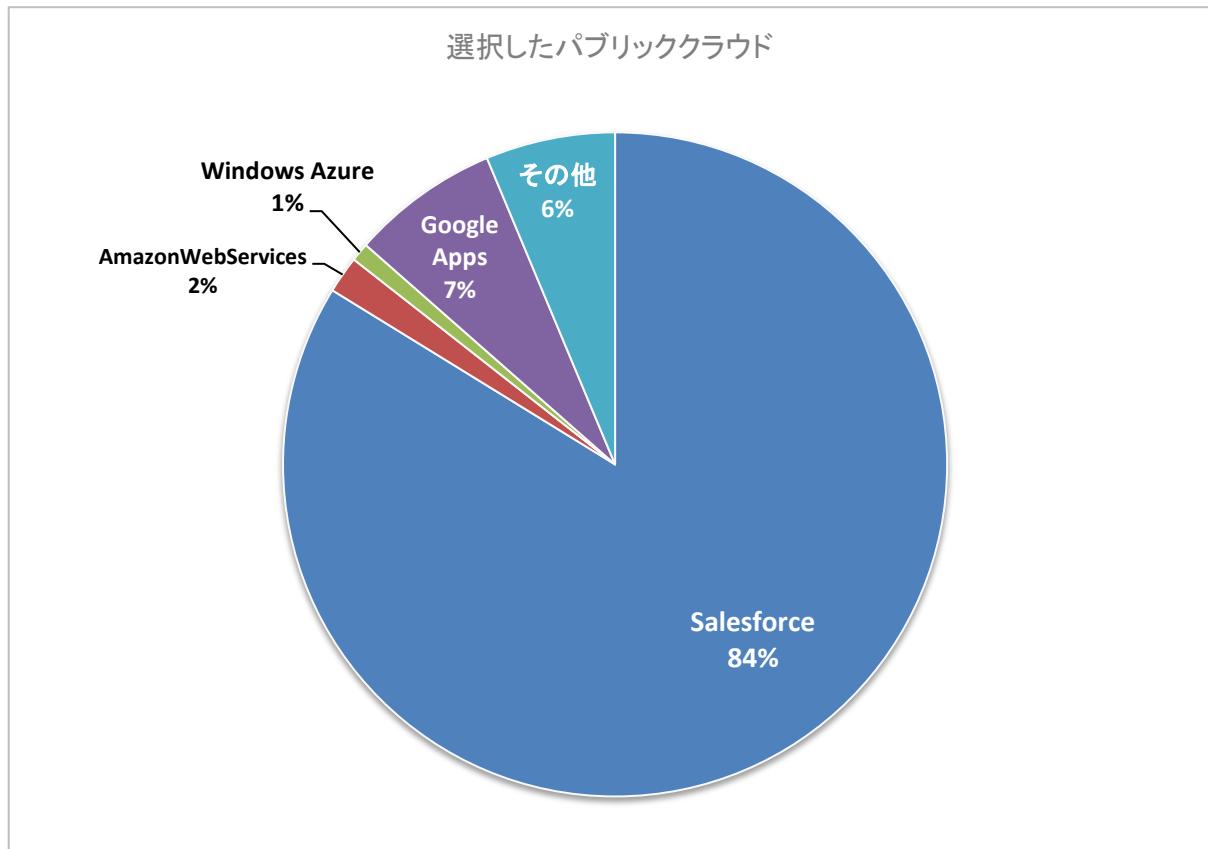
2.2 回答者の個人属性



回答者のうち71%は、情報システム部門以外の、エンドユーザー部門、マネージメント、あるいは企画部門など、クラウド上のシステムで遂行される業務に関わる部門に所属する方です。

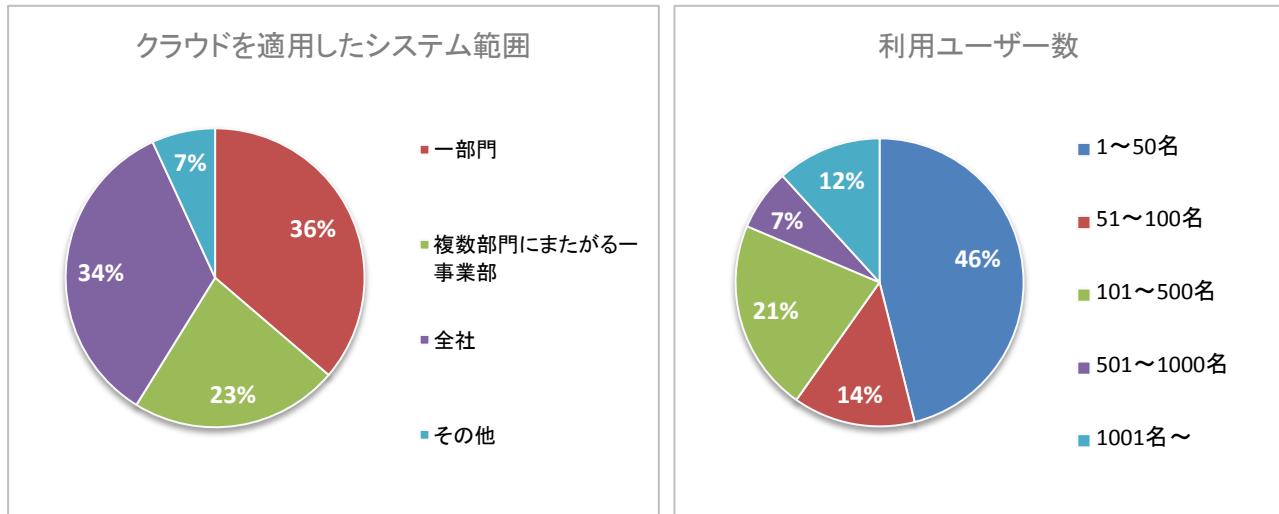
3. クラウドの利用状況

この調査レポートの前提として、回答企業が利用しているパブリッククラウドは、下記のように80%以上が Salesforceです。Salesforceのアプリケーション機能まで含めた利用としての回答が多く含まれていることを考慮いただく必要があります。

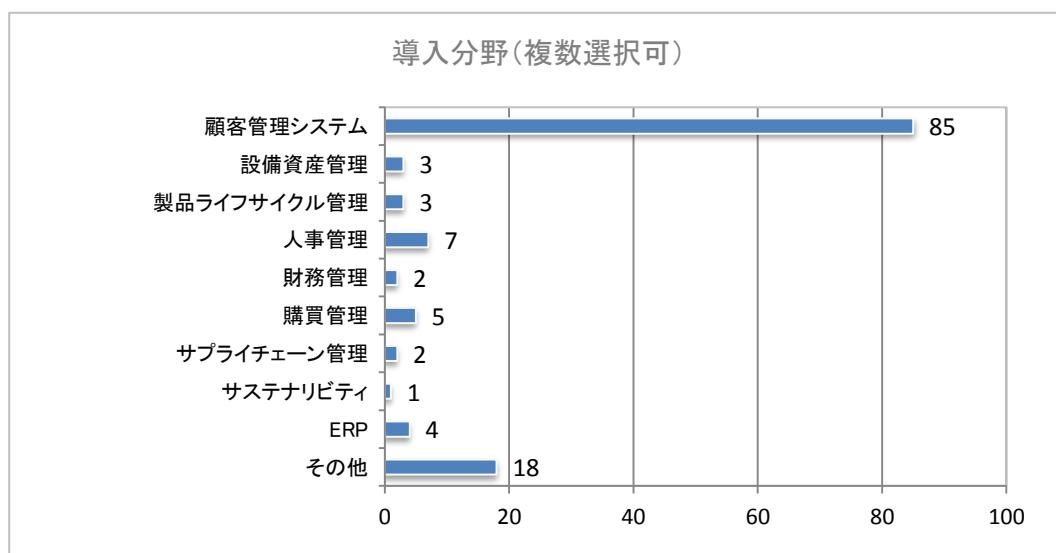


3.1 パブリッククラウドの利用範囲

クラウドを利用したシステムの適用は、単独の部門での利用と全社利用がそれぞれ1/3で、複数部門にまたがったり、所属とは異なる業務に関わるメンバーでの利用などが残りの1/3と、システム範囲の規模によってクラウド選択の判断がされていないことが分かります。しかし、利用ユーザー数を見ると50名以下の利用が46%を占めています。これは、Salesforceの課金がユーザー単位であることが影響していることが原因と予測されます。



導入分野では、顧客管理システム(SFAを含む)が圧倒的に多く、まだ基幹業務にクラウドを利用している企業は少ないことが分かります。

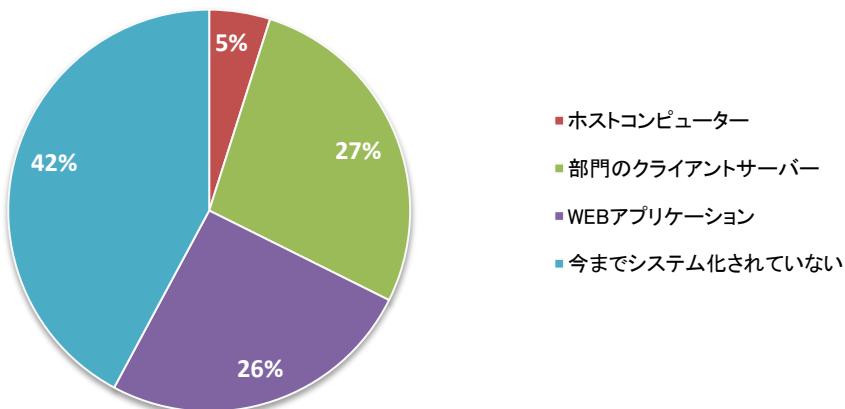


3.2 パブリッククラウドへの移行

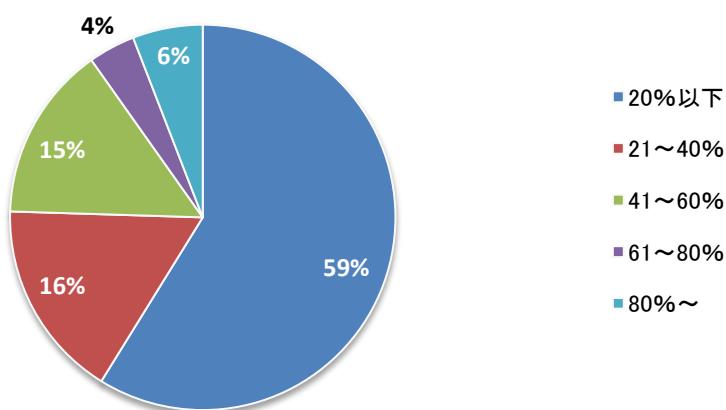
現状、クラウドで運用しているシステムの、クラウド移行前の所在を質問しました。「今までシステム化されていない」が42%と、それまでにIT資産を保有していない業務をシステム化する際に、クラウドが選択されることが多いことが分かります。ついで、部門のクライアントサーバー、WEBアプリケーションと、置き換えやすいシステムからの移行が進んでいます。

このことは、クラウドに移行したシステムの割合からも分かれます。クラウドへ移行したシステムの割合が20%以下と答えた企業は、約6割にのぼります。一方、80%以上と答えた企業が6%あるというのも特筆すべき点です。

クラウドに移行したシステムの所在



クラウドに移行したITシステムの割合

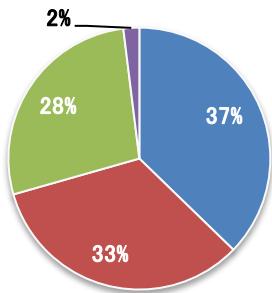


クラウド導入を推進した部門は、情報システム部門とエンドユーザー部門、その他部門がほぼ均等で、特に偏った傾向はありません。逆に言うと、ITシステムの導入を必ずしも情報システム部門が推進しているのではないことが分かります。

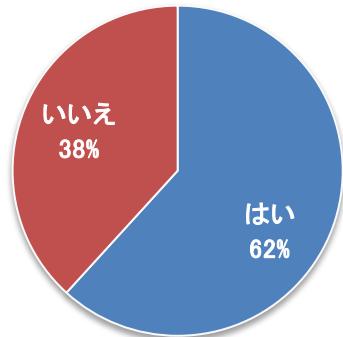
また、初期導入時には、6割以上の企業でベンダーを利用しています。このベンダー利用の有無と推進部門、クラウド適用システムの割合の間には、相関関係はありませんでした。

クラウドの導入を最も推進した部門

- 情報システム部門
- エンドユーザー部門
- マネージメント
- その他

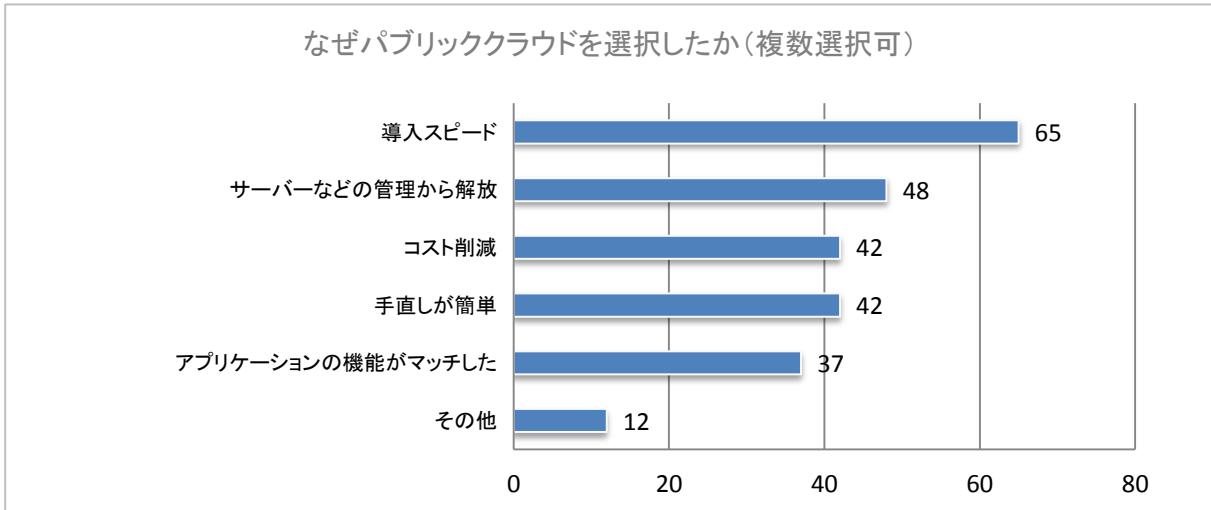


ベンダーを利用したか



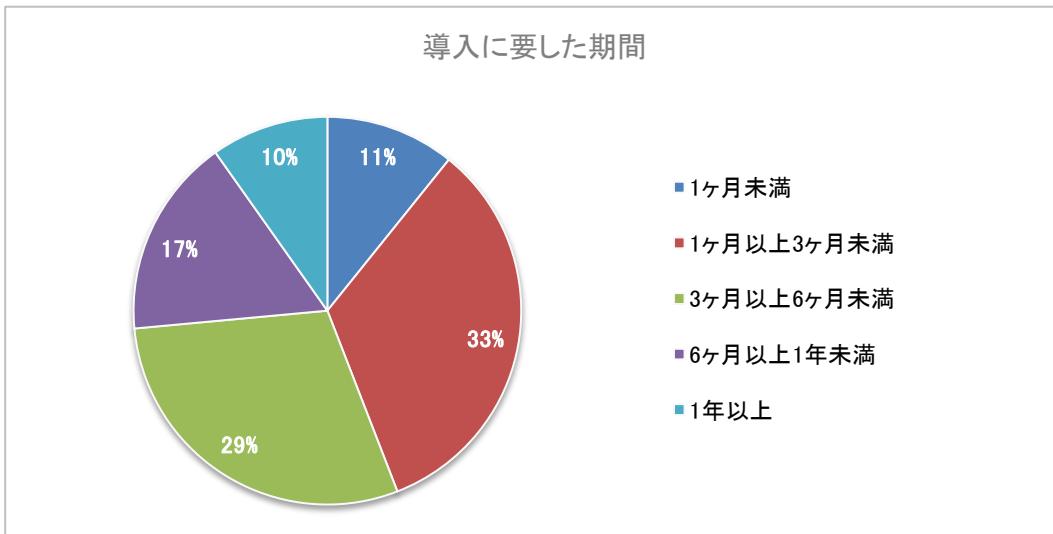
3.3 パブリッククラウドの選択

パブリッククラウドの選択理由で、もっと多くの企業が挙げた理由が「導入スピード」でした。ついで、「サーバーなどの管理からの解放」「コスト削減」を半数近くの企業が期待していることがわかります。「サーバーなどの管理からの解放」は明白な事由ですが、「導入スピード」と「コスト削減」が実際にどの程度であったかを、次項であきらかにします。

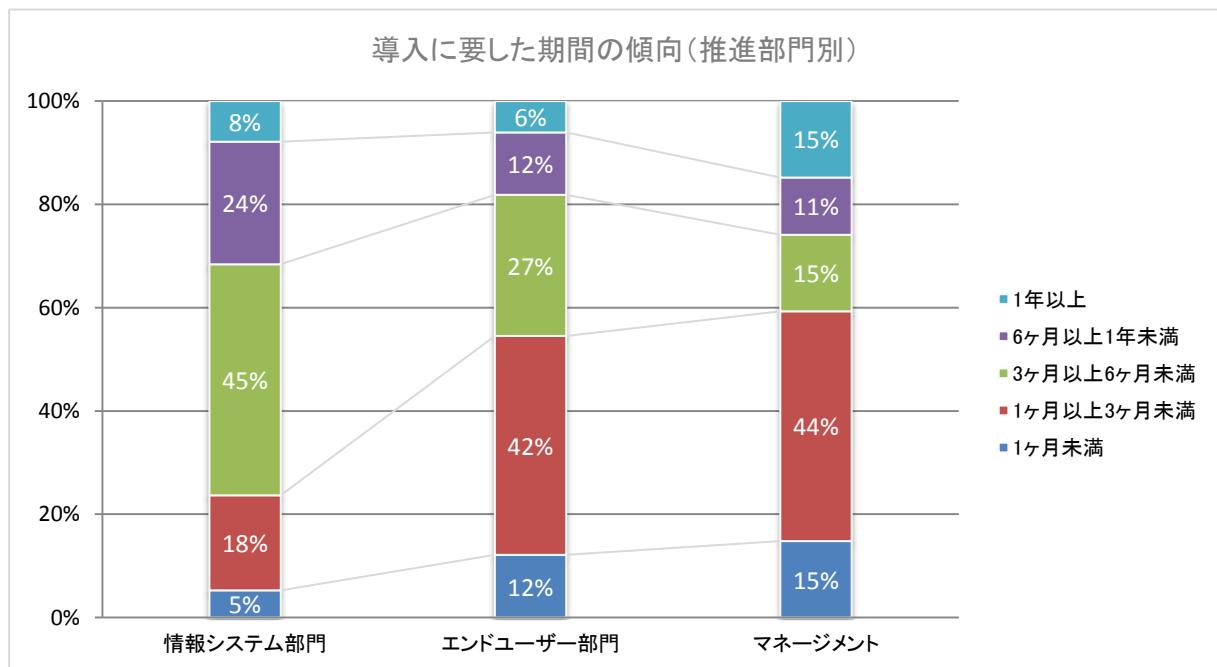


3.4 パブリッククラウドの導入に要した期間

クラウドの導入に要した期間は、44%の企業が3ヶ月未満で、73%の企業が6ヶ月未満と回答しており、期待された導入スピードを概ね実現できている結果となっています。

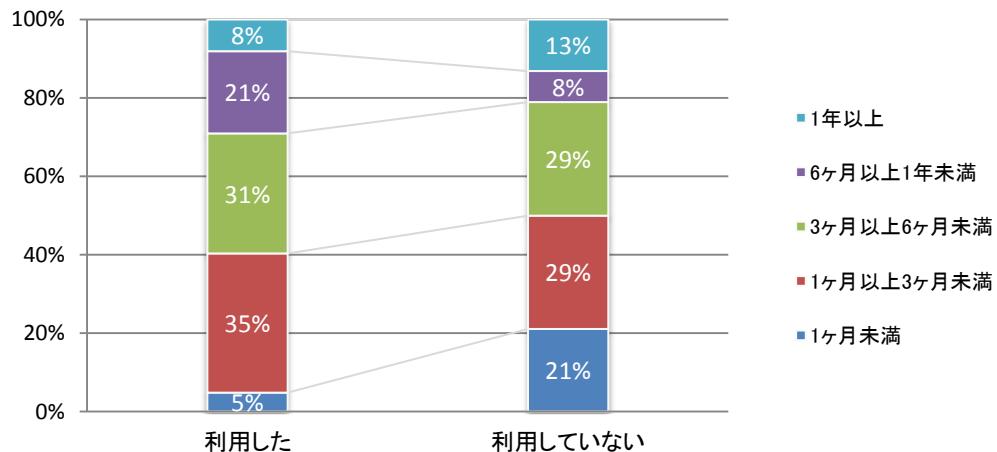


クラウドの導入を推進した部門によって、導入期間の長さに傾向があるかを集計しました。情報システム部門が推進した場合、3ヶ月以内の導入企業は20%程度なのに対し、エンドユーザー部門やマネージメントが推進した場合は、6割近い企業で3ヶ月以内での導入を実現しています。これは、意思決定の速さや業務理解が起因していることが伺えます。



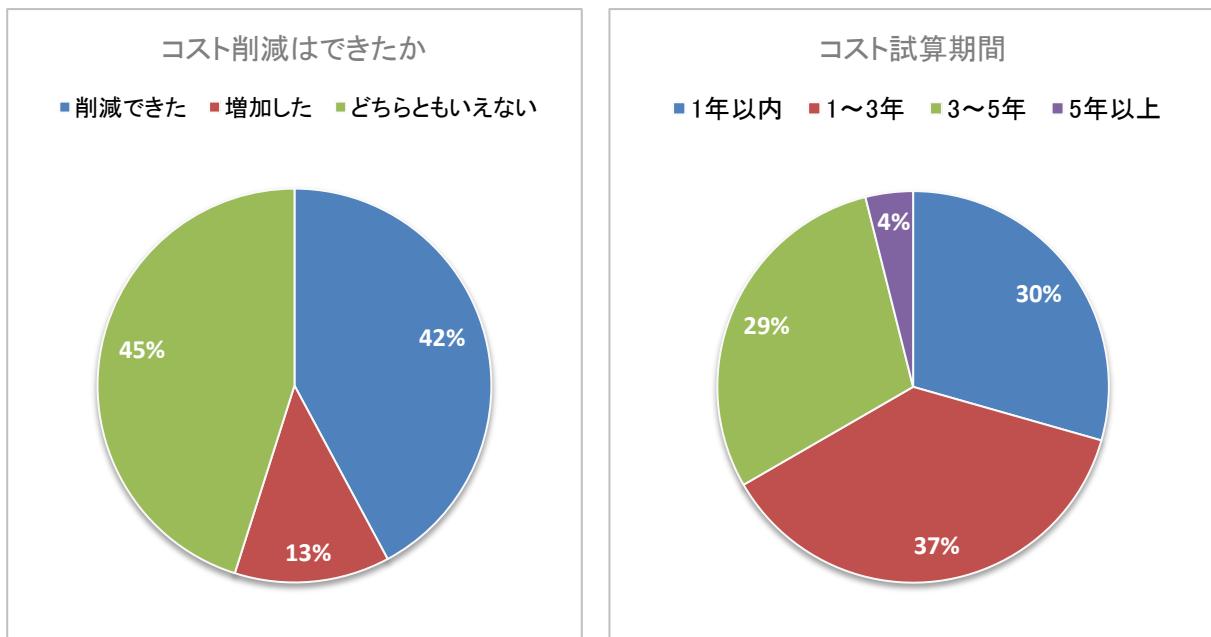
また、ベンダー利用の有無によって、導入期間の長さに傾向があるかを集計しました。傾向として言えるのは、ベンダーを利用していない場合、1ヶ月未満でのハイスピードな導入の割合が高いことです。同時に、1年以上かかる割合が高いことも見受けられます。

導入に要した期間の傾向(ベンダー利用の有無別)

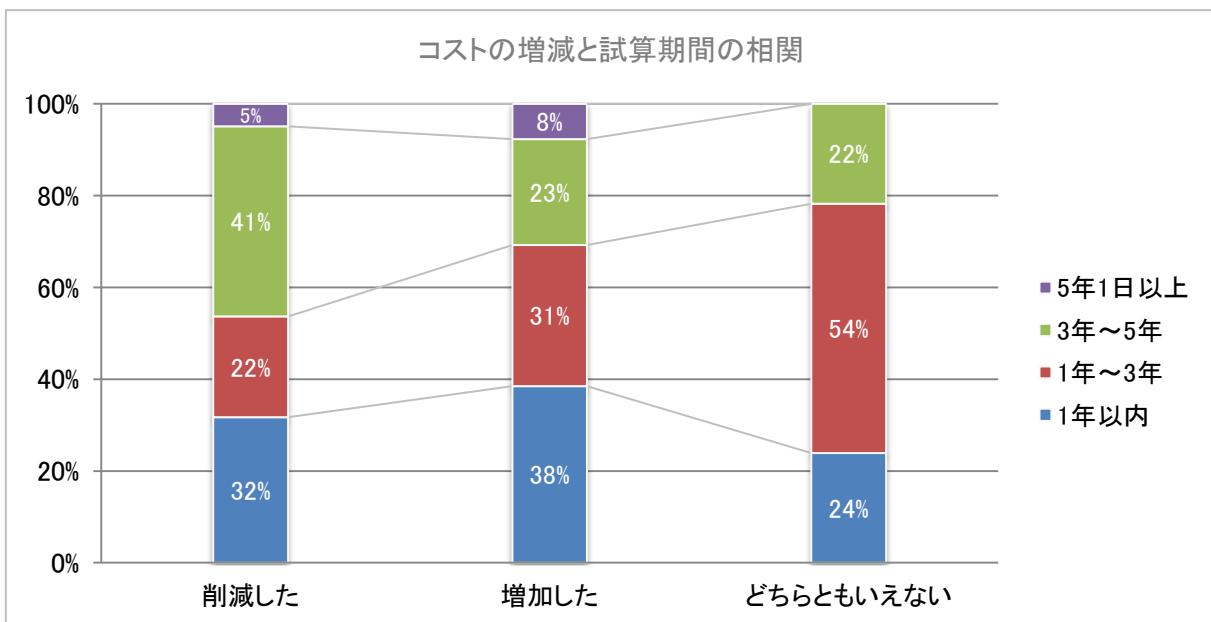


3.5 パブリッククラウド導入によるコスト削減

クラウド導入によるコストの削減は、42%の企業が「削減できた」と回答した一方、13%の企業は増加したと答えました。同時に、コストの試算期間を質問したところ、1年以内から5年まで、企業によってばらつきがあることが分かります。



このコスト削減の可否と試算期間の相関を見ると、「削減できた」と回答した企業は、3~5年で計算している割合が高いのに対し、「増加した」と回答している企業は、1年以内で計算している割合が高い傾向が受けられます。



4. クラウドの運用について

4.1 改修時の担当部門

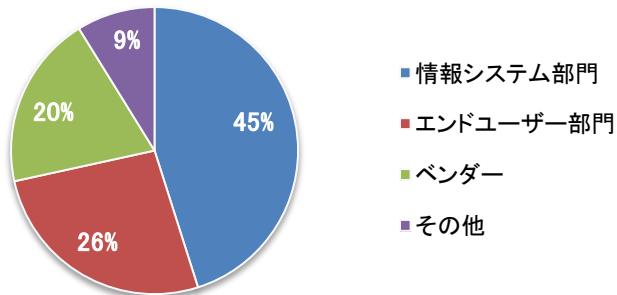
導入したクラウドシステムの運用について、特に改修等でシステムに変更を加える場合の担当部門について質問しました。45%の企業では情報システム部門、26%の企業でエンドユーザー部門、20%の企業でベンダーが担当するという回答が得られました。

なぜ「情報システム部門」が改修を担当するのか、の回答として、「情報システムの専門部署だから」という回答が最も多い、「今までそうしてきたから」「会社のルールだから」と合わせ、役割やルールで担当部門を決めている企業が多いことが分かります。

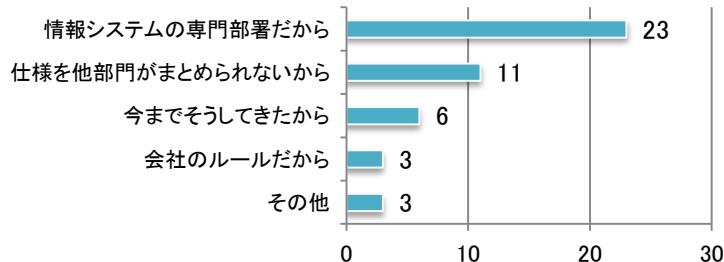
同様に、「ベンダー」と回答した理由も、「情報システムの専門家だから」「今までそうしてきたから」という理由が選ばれています。

それに対し、「エンドユーザー部門」を選択した理由として挙げられたのは、「業務が分かっているから」と「早く修正ができるから」といった効率を理由とする回答が多く見受けられました。

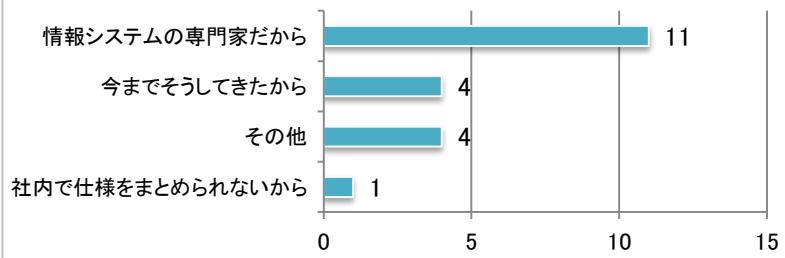
改修を行う場合に、実際に修正を行う部門は



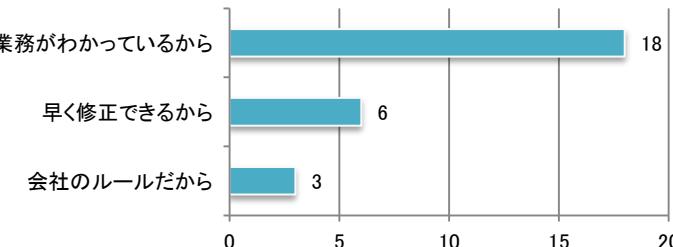
なぜ「情報システム部門」か



なぜ「ベンダー」か



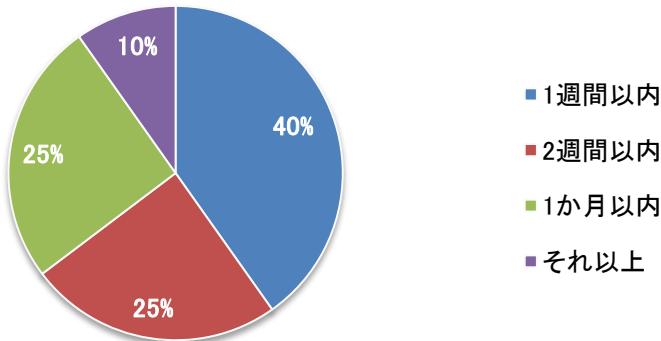
なぜ「エンドユーザー部門」か



4.2 改修に要する期間

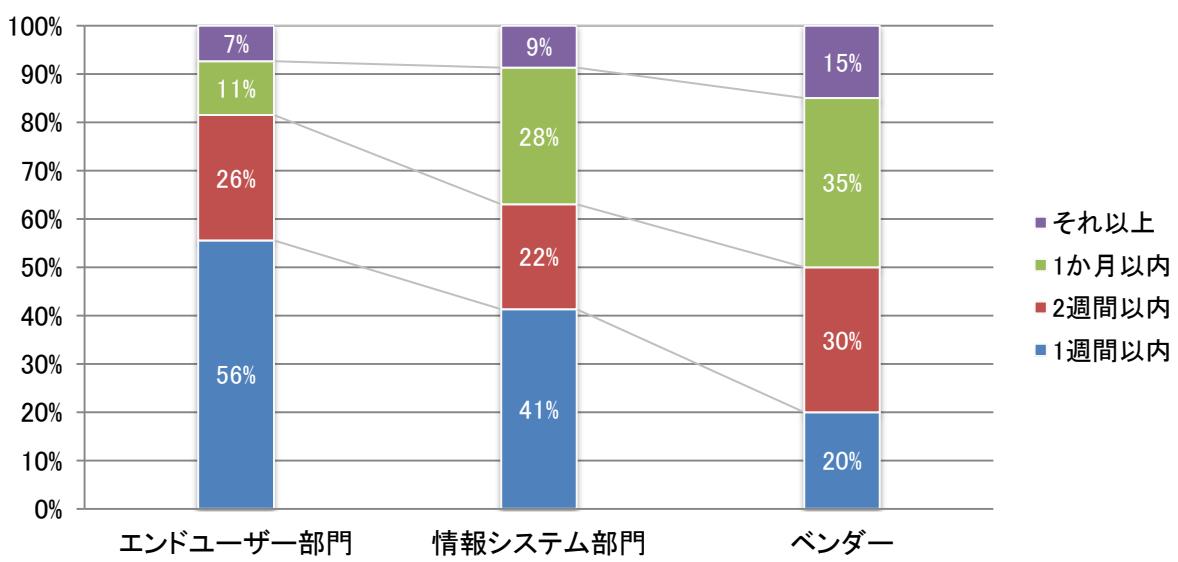
クラウドでの改修で、要件が発生してから改修が実行されるまでの期間は、4割の企業が1週間以内と回答しました。利用しているクラウドがSalesforceであるということも、この実行速度の速さに起因していると思われます。

修正の要件が発生してから、実際に修正が実行されるまでの期間



改修を担当する部門と修正期間の相関を見てみると、担当部門がエンドユーザー部門の場合にもっとも速く、ついで情報システム部門、ベンダーの順となりました。

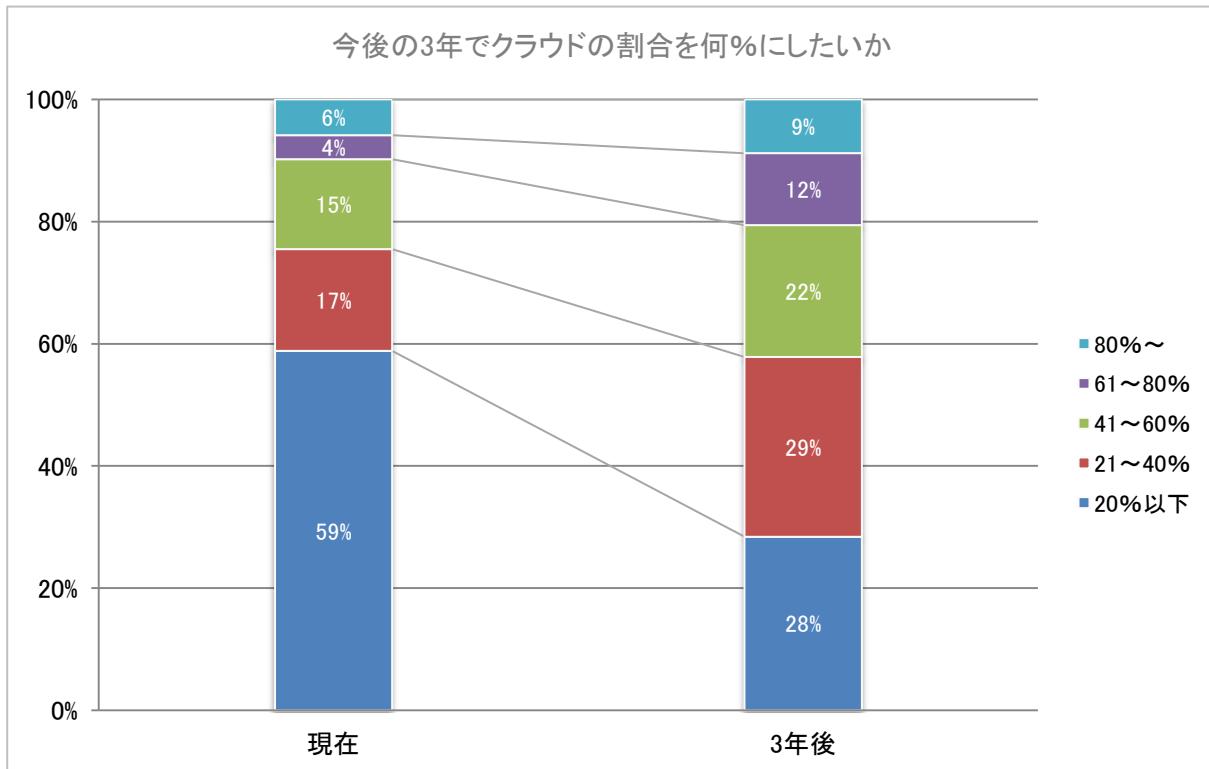
修正担当部門と修正期間の相関



5. 今後のクラウド利用について

5.1 3年後のクラウド利用の割合

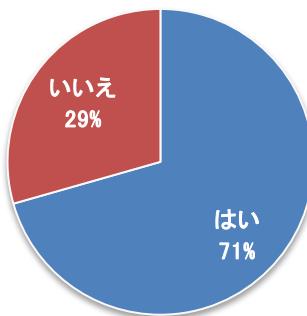
今後3年でクラウドの割合をどれくらいにしたいかを質問しました。現状と比較すると、20%以下と回答した企業は、59%から28%と半分以下に減少し、21～40%がプラス13%、41～60%がプラス7%、61%以上の回答が10%から21%に増加と、クラウド利用の割合を増やしたいと考えている企業が多いことが分かります。



5.2 基幹システムのクラウド利用

最後に、基幹業務のクラウド利用について質問しました。今後、基幹系・業務系アプリケーションをクラウドにのせてもいいか、の設問に対し、71%の企業が、「はい」と回答しました。

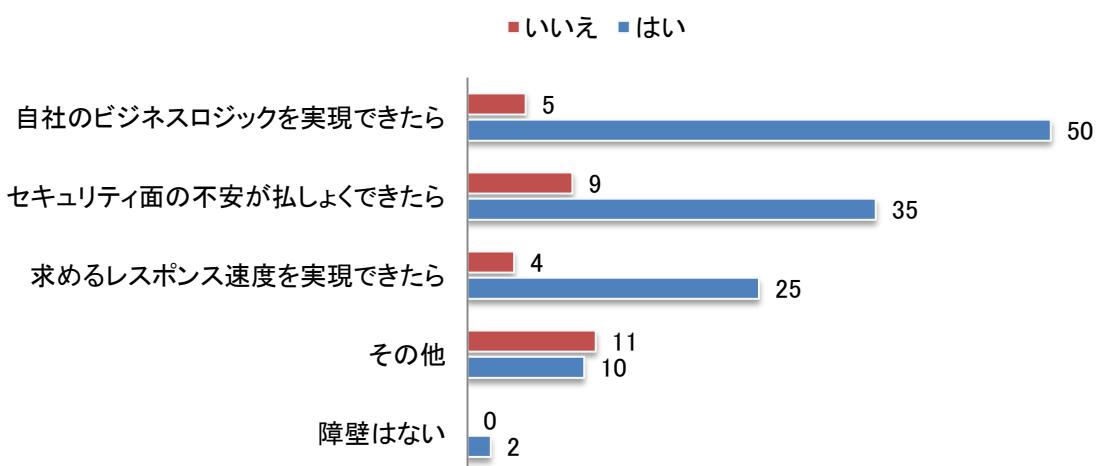
今後、基幹系・業務系アプリケーションをクラウドにのせてもいいと思うか



しかし、現状では基幹系・業務系アプリケーションでクラウドを利用している企業が少ないことは、6ページの「導入分野」の設問から明らかです。そこで、基幹システムをクラウドに移行する際に、どんな条件をクリアする必要があるか、なにが障壁となっているかを質問しました。

上記、基幹システムを移行してもいいか、という設問に「はい」と回答したグループ(青色)と、「いいえ」と回答したグループ(赤色)を対比して集計しました。「はい」と回答したグループは、自社業務のビジネスロジックの実現をもっと多く条件として選び、ついでセキュリティ、レスポンスと回答しました。「いいえ」と回答したグループには、特に傾向はあらわれませんでしたが、「その他」の回答内容を見ると、「判断できない」「裁量がない」「会社の方針」といった回答が多く、具体的な事由を示していない回答が多くありました。

基幹システム移行の障壁(複数回答)



テラスカイについて

テラスカイは、クラウドとシステム連携を核とするソフトウェア開発・コンサルティング事業等を行なっています。創業時よりセールスフォース・ドットコム社のコンサルティングパートナーとして、650社を超えるお客様への導入サービスを行なってきました。その実績により培ったノウハウを基に、お客様の業務効率を高める革新的なソリューションを提供しています。テラスカイの詳細は（<http://www.terrasky.co.jp>）にてご覧いただけます。

本調査・弊社についてのお問い合わせ

株式会社テラスカイ

03-5255-3410

info@terrasky.co.jp